



2017年 IFALPA 総会出席報告 (その1)

1. はじめに

2017年5月5日から8日までの4日間、第72回 IFALPA 総会がカナダのモントリオールで開催されました。また例年通り、IFALPA 総会前日には GPS (Global Pilots' Symposium) が開催され、合計5日間に渡って1年間の活動報告や会計報告、役員選挙等の各イベントが行われました。ALPA Japan から議長を含む5名が参加した、総勢500名の大規模な総会の様子を皆さまにご紹介します。

2. GPS (Global Pilots' Symposium)

今年も ASAP (Association of Star Alliance Pilots)、OCCC (One world Cockpit Crew Coalition)、SPA (Sky Team Pilot Association)、そして IFALPA が主催として開催された Global Pilots' Symposium には各アライアンスメンバーと IFALPA 加盟メンバーが集い、Guest Speaker による講演やパネルディスカッションが行われました。



Capt. KC Mueller

GPS の冒頭、Capt. KC Mueller (ALPA International) から出席者への歓迎と、IFALPA の代表として世界中で活躍する各 Committee メンバーへの感謝の言葉が述べられ、開会が宣言されました。最初の講演では、IFALPA President の Capt. Ron Abel が、GPS のテーマである航空業界を取り巻く変化に触れながら、出席者一人ひとりに「航空業界のリーダーとして、各国 ALPA の活動におけるゴールの追求、安全の水準を最高のものに高めるための

推進」の重要性を訴えました。以下に主な講演の概要をご紹介します。

PRESS&MEDIA

Air Transport World 誌編集者の Karen Waker 氏による、メディアに関するプレゼンテーションでは、昨今のスマートフォンの普及が引き起こしている様々な事例が紹介されました。

航空インシデント時の乗務員の対応などが乗客によって撮影され、インターネットに投稿される事例が急増しています。エンジン火災後の緊急脱出時の映像も多くアップロードされており、一部エアラインの乗務員の対応に対して非難の声が上がっていることもありました。

それらの映像を見れば乗務員の対応は一目瞭然であることから、それに対する閲覧者のコメントが更に問題を大きくしてしまうこともあります。最近の事例では、ユナイテッド航空のオーバーブッキングによる乗客強制降機の映像や、ANA 便の出発前機内での乗客同士の喧嘩の映像などがインターネット上にアップロードされ、多くの人に閲覧されたことが挙げられます。これを防ぐための国による政策はまだ制定されておらず、今後もこういった情報の撮影と投稿、その閲覧は多くなっていくことでしょう。

スマートフォンの普及によって起こり得る別の問題として、人々の行動が常にモニターされていることが挙げられます。例えば Google MAP のアプリなどは常時起動しており、携帯電話の GPS による位置情報を元に所持者の移動情報が記録されているのです。最近の機能で、アプリケーションの中にある「タイムライン」を選択すると、過去に遡って所持者の移動した記録を見ることが出来ます。そのデータ



Ms. Karen Waker

には移動場所はもちろんのこと、移動した速度を自動的に計算して、徒歩、自転車、車、飛行機などと自動で認識しているのです。個人的に利用する分には、過去の自分の行動を閲覧することは興味深いことであるかもしれませんが、そのデータは Google 社に自動的に集められ、解析されているのです。コンピューターの解析能力は凄まじいスピードで進んでおり、いわゆる「ビッグデータ」といわれる膨大なデータを処理出来るようになりました。こうして集められた「ビッグデータ」を解析し、個人の行動パターンを把握することで、こういった場所にこういった人々が移動しているかといった情報を集約することは、様々な企業にとって貴重な情報源になります。こうした人間の行動パターンに加えて、レストランの予約やホテルの予約、航空券の予約情報も GMAIL を利用することで、付加情報が加えられます。これによって各業種の営業担当はタイムリーに顧客に対してレストラン、ホテル、航空券のオファーをメール等で伝えることで、結果的に業績が向上することは間違いないものになっていくのです。

The Human Impact of Change

心理学者である Mark Hamlin 氏からは、変化に対する人間への影響に関するプレゼンテーションが行われました。

そもそも現在の社会、人間、そして企業は常に変化をしている状況にあります。特に航空産業は今までかつてない程のスピードで情勢が変化しています。その航空産業の中で組合活動を行う場面において、この変化に対応することについて心理学的な立場から言う「精神面への影響」について完全に理解していない人が多いのが現状です。そのため、このプレゼンテーションでは特に組合団体の牽引役を担っている方々に対するアドバイスを行っていきたいと思います。

企業は従業員に対して常に変化を求めています。具体的には、「技術の向上、リストラクチャリング、役員を選任、戦略的变化、M&A、ミッション（使命、目的、役割）、ビジョン（目標、夢、方向性）、バリュー（価値観、姿勢）」等が挙げられます。航空産業に特化して言えば、「新規路線、新しい基準・規定、新しいプロシージャ、新機材、新たな勤務基準」等が挙げられるでしょう。しかしこういった変化に対応出来ている企業は全体の12%程度に留まり、38%は変化に対して半分も対応できず、約半数は現状維持となっているのが実情です。



Mr. Mark Hamlin

今日のプレゼンテーションの題目となっている、変化がもたらす人への影響について考えてみます。職場での変化は

大きく2つに分けることが出来ます。それはハード面における企業規模、企業理念、企業システムなどがあり、ソフト面における従業員、スキル、働き方などがある。人は変化に直面すると、以下の順に対応していきます。「否定」→「怒り」→「罪」→「気の沈み」→「容認」。この「容認」の段階まで進むと人は自信・自尊心のレベルが大きく下がっていきます。そして先ほどの企業の例と同じく、多く人は変化に対応できず、現状維持のまま自信・自尊心が低下した状態で留まってしまうのです。つまり、変化が多ければ多い程、このレベルが下がって行ってしまおうと言えます。

組合団体の代表としてこういった変化に対応していくには、まず多くの組合員と対話を行い、より詳しい情報をタイムリーに共有していくことが必要です。そして常にサポート役となりメンバーからの意見や質問に対応していくことが大事なのです。そこから得られた情報を元に、会社及び組合の戦略を決定し、明確な目標を定めなければなりません。その目標を定めた後も、組合員からの意見・質問を受け入れ、また意見を言いやすい環境設定が必要です。

GPS UNITY IN THE GLOBAL CONTEXT

ACPA（Air Canada Pilot Union）所属の Gary Russell 氏が司会を務め、ACPA CEO Milt Isaacs 氏、Canadian Labor Congress（3,300 万人が所属するカナダ最大の組合労働党）議長 Hassan Yussuff 氏の発表がありました。「いかなる形であれ、声を掛け合い、対話することから解決の道は始まる」と Hassan 議長は切り出しました。そして「携帯電話を含め、対話の手段はいくらでもある。課題や問題点を掲げ、自分たち労働者の権利を取るためにはどうしたらいいのかを考察することは、重要な手段である。抽出したものはメンバーを動員して解決にあたる」と述べました。一方、Isaacs CEO は「全員で団結して労働者全員に影響を及ぼす問題について、一緒に解決したい」と述べ、労働組合縮小に動く反組合組織や制定に対しては、組合として相互に関心を寄せる問題について協力、共有することが重要で未来の労働の形にするためには不可欠であると強調しました。

パネルディスカッション

Atypical Employment

ヨーロッパなどでは多くの航空会社で **Atypical Employment** と呼ばれる雇用形態が乗員の新しい雇用方法となっています。これは航空会社以外の会社を経由して契約の乗員を雇うことによって人権費を削減し、乗員の雇用を流動的にし、航空会社側の負担を減らす目的があります。

この **Atypical Employment** の問題点として、乗員の質や安全性の低下に加え、乗員の職場の環境の悪化が挙げられます。この問題について米国、ニュージーランド、南アフリカ、ドイツ、アルゼンチンからパイロットがパネルディスカッションに参加し、各地域における問題点を話し合いました。

このパネルディスカッションを通じて、各地域において **Atypical Employment** の影響を受けている度合いは異なるものの、今後、世界中で国境を超えた乗員の雇用が増加する一方、国や地域において **Atypical Employment** に関する規制などを行うことで、ヨーロッパ等で直面している事態を避けることが重要であるという結論に達しました。

Social Media

昨今、世界的にソーシャルメディアが情報伝達の主な手段になりつつあることによって、航空業界を取り巻く環境が大きく変化しています。機内で発生した出来事を乗客が撮影することを含め、映像による影響が拡大しやすい媒体を利用することにより、瞬く間に偏った情報が世界中に広がるため、事態をコントロールすることが非常に難しくなっています。

この問題について、ユナイテッド航空のコミュニケーション担当がプレゼンテーションを行い、この新しい環境に対応するための情報に関する解釈の方法や、ソーシャルメディアとの上手な付き合い方について解説をしました。このトピックスに相応しく、プレゼンテーションでは多くの映像を駆使し、私たちの飛びつきやすい情報や吸収しやすい情報媒体を感じ取ることが出来ました。安全を最優先に掲げる航空会社にとって、ブランドのイメージを自ら自由に操り、被害者とならないためにもソーシャルメディアの理解は今後も非常に大事となるとのことです。

後半では、同じくソーシャルメディアの影響力を語った上で、航空会社が実際に経験した成功例について紹介がありました。今年、トルコ航空において **Twitter** を通じてソマリアへの支援物資を輸送するチャーター便の運航が実施されました。そのきっかけは、**YouTube** で活躍するスターや米国のハリウッド俳優などがソマリアの貧困に対するアクションを求めたことに始まります。彼らは欧州から唯一ソマリアに定期便を運航しているトルコ航空に対して **Twitter** を通じて呼びかけを行い、それと同時にネット上で募金活動を行いました。それにトルコ航空も応じたことから、10日間で集まった募金を利用して支援物資を送ることに成功したのです。ソーシャルメディアに関して航空会社は消極的であるという主旨のニュースが飛び交う中、このケースはソーシャルメディアと航空会社が結びついた数少ない成功例である、という話で **GPS** は締めくくられました。

(その2へ続く)